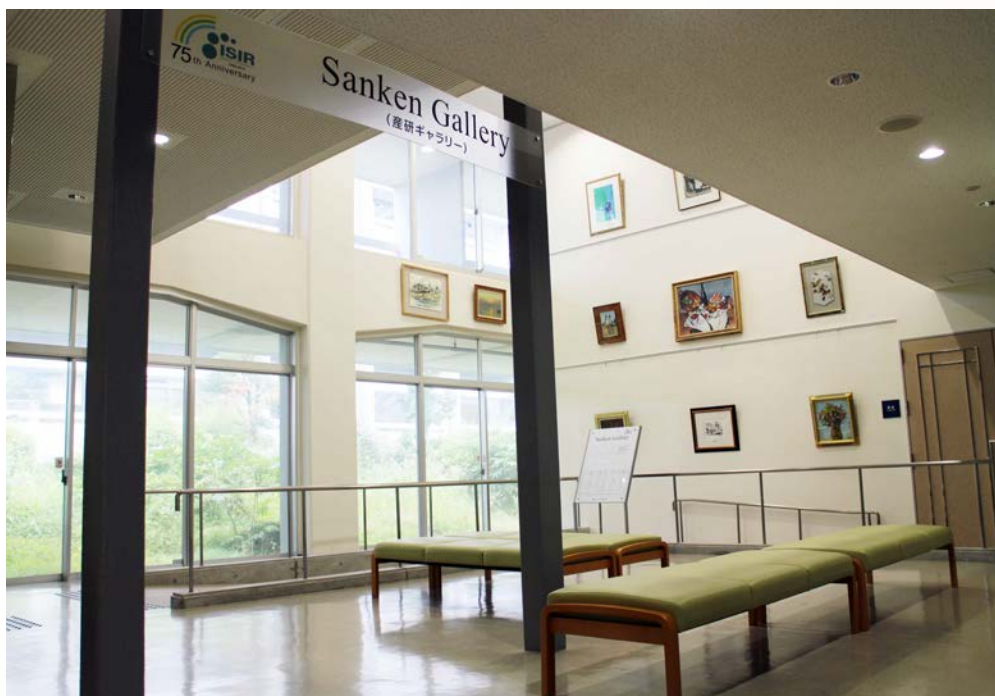




SANKEN Alumni Association

産研 同窓会通信

2015年7月



(創立75周年記念事業「産研ギャラリー」設置 2014.11)

産研同窓会総会
75周年記念事業報告
山行日記
掲示板
退職者の紹介
など

第8回産研同窓会総会を開催

平成27年3月4日、産研所長室において、第8回産研同窓会総会を開催しました。

総会は、権田会長の司会により、活動報告等に加え、役員の交代や産研の現況報告が行われました。また、今後の活動方針等の意見交換が行われました。



【役員リスト：平成27年4月1日現在】

会 長	坂田 祥光	名誉教授 (21 代所長)
副 会 長	山口 明人	特任教授 (24 代所長)
	八木 康史	所長 (所長任期中)
監 事	弘津 禎彦	特任教授 (企画室長)
	川西 正光	元事務部長
運営委員	澤田 正實	元助教授
	茶谷 直人	本学工学研究科 教授
	西嶋 茂宏	本学工学研究科 教授
	柏原 昭博	電気通信大学 教授
	鷲尾 隆	教授
	安蘇 芳雄	教授
	誉田 義英	准教授
	中川 正	総務課長

【平成26年度会計報告】

○収入 : 376,057円

(内訳)

294,449円 (昨年度繰越金)

81,500円 (永年会費)
108円 (その他)

●支出 : 150,000円

(産研75周年記念事業への寄附)

☆ 来年度繰り越し : 226,057円



今後も、同窓会活動の充実のため、
有効的に活用させていただきます。



■ 権田俊一会長から、坂田祥光会長へ 「同窓会長就任のご挨拶」 坂田 祥光

前同窓会長の権田先生から会長就任の依頼を受けました。私は健康面で不安があるので躊躇したのですが、副会長でもありましたのでお引き受けせざるを得ないと考え、就任することになりました。微力をつくしますので、宜しくお願い致します。

権田先生が会長の時代には産研創立75周年記念事業が行われ、講演会や祝賀会には多くの同窓生が集いました。また、同窓会活動の一環として、倉庫に眠っていた絵画を玄関ホールに展示することも行われました。このように、権田先生が会長の時代には同窓会活動がそれまでと比べて活発に行われたという印象が強くなります。

そこで、今後同窓会活動をどのように進めていくかを考えますとなかなか難しいものがあります。現在、産研同窓会の会員は約600名です。同窓会に寄せる想いもさまざまでしょう。一方、産研同窓会の活動費は約22万円です。多くのことが出来る訳ではありません。今のところ従来行われてきた産研同窓会ニュースを発行するとともに、同窓生が集まる機会を年1回は持ちたいと考えています。その他にも同窓会に関するアイデアやご意見があればお寄せ下さい。少しでも皆様のご要望に沿う同窓会にしていきたいと思ひます。

■ 産研75周年記念事業「産研ギャラリー」を設置

産研は昨年（平成26年度）、創立75周年を迎え、産研主催、産研協会、産研同窓会の後援のもと、記念事業が実施されました。産研同窓会は、75周年記念事業の一つである、名誉教授方や各方面からの寄贈絵画をまとめて産研正面玄関スペースに展示する「産研ギャラリー」コーナー設置に関し、費用の一部を寄附をしました。ギャラリーには、絵画15点が展示され、11月11日には「産研ギャラリー・オープニングセレモニー」が行われました。



11/7 (金)	産研テクノサロン・スペシャル 未来を担う産業科学の躍進を目指して (15:00～19:00) 場所:千里ライフサイエンスセンター	11/29 (土)	研究所公開 一般公開 (9:30～12:00) 場所:大阪大学 産業科学研究所
11/27 (木)	第17回 産研定例記者会見 (11:00～14:00) 場所:大阪大学 産業科学研究所	11/29 (土)	創立75周年記念 第70回学術講演会 (13:00～16:45) 一般公開 場所:大阪大学 産業科学研究所 講堂
11/28 (金)	研究所公開 一般公開 (10:00～13:00) 場所:大阪大学 産業科学研究所	特別講演 金出 武雄 特任教授 (カーネギーメロン大学ロボット研究所、ワシントン大学) 「面白くて、役に立ち、ストーリーのある」研究のすすめ	
11/28 (金)	創立75周年記念 特別講演会・式典・祝賀会 (14:30～19:30) 場所:千里阪急ホテル	12/10 (水)	産研国際シンポジウム 場所:グランフロント大阪
		12/12 (金)	

■ 「第2回産研OB・OG／学生交流会＆産研キャリアミーティング」を開催

5月2日（土）、産研インキュベーション棟講義室にて、産研院生会議、産業科学連携教育研究センター、企画室の共催により「第2回産研OB・OG／学生交流会＆産研キャリアミーティング2015」を開催し、産研OB・OGおよび現役学生が約40名参加しました。

今回は、従来の交流会に加え、産研キャリアミーティングとして、野本 琢也さん（旧新原研卒）、大澤 奈々穂さん（八木研卒）、日本ガイシ株式会社 セラミックス事業本部センサ事業部の藤井 雄介さん（松本研卒）、株式会社カネカ 太陽電池・薄膜研究所の櫛崎 貴吉さん（田中研卒）をお迎えし、これから社会へ出る後輩へ向けて、就職活動の経験談、社会に出てわかる産研の強み、学生時代にしておくべきこと、企業で働くということ等アドバイスを頂くとともに、質疑応答や交流が行われ、OB・OGと学生の親睦が図られました。



山行
日記



「六甲山」

A group of five people and two dogs are standing in a snowy field. From left to right: a woman in a dark jacket and red scarf, a woman in a red jacket and white beanie, a woman in a grey jacket, a child in a blue jacket and red beanie, and a man in a blue jacket and red beanie. Two light-colored dogs are in the foreground. The background consists of bare trees and a snowy ground.

百間滝の氷瀑 1990 年

翌年 1991 年の 5 月に小学生だった次女の朝子、息子の州人（くにと）、それに犬をつれて、また紅葉谷を通して百間滝へ行つた。今度は百間滝の上部の道なき道を、木につかまり岩をよじ登りながら歩いた。最後に、地図の一軒茶屋と極楽茶屋の間あたりの道に出た。ありきたりでないことをやり、二人ともまんざらでもなさそうだった。もっとも犬はどうだったかわからない。ひょっとしたら一番喜んでいたかも。

その後、東お多福山へ行ったときのこと。森の一部の開けたところで、食事をしていた。近くでは遠足で来た小学校低学年の生徒達がやはり食事をしていた。突然、キャーという叫び声。見ると近くをうろうろしていたイノシシが生徒のリュックサックをくわえて走っている。先生があわてて追いかけ、どうやらリュックサックは取り返したが、リュックサックは傷だらけだった。イノシシには注意しないといけない。

ロープウェイの六甲山頂駅の近くにはスキー場がある。家族みんなで行ってスキーを楽しんだ。まだ自然の雪は降っておらず、コースのところだけ人工雪があり、かわった感じだった。

六甲山についての昔話を書いているときりがない。本題に入ろう。なお、前の地図にある湯槽谷山を含む有馬三山、荒地山、摩耶山については別に紀行文を書いている。

ここに書きたいのは、2014年5月6日の山行である。いままで百を超える山の紀行文を書いてきたが、妻や子どもたちとの山行はあっても孫との山行がない。私は5才のとき、母親に連れられて草津白根山に登った。これは強く印象に残っていて、よい思い出になっている。小さいうちに、有名な山に登っておくといいのではないか、それに自分も今年は78才になる。これから先、そう長くは登れないだろうから今のうちかな、というのが動機だった。

相手はこの年、小学校に入学した次女朝子の長男健生（たける）である。父親の勝仁君が同行してくれることになった。勝仁君は先述の阪大中島研究室の卒業生である。縁は異なるものである。山行の目的からすれば、山はよく知られた山で行きやすいところがよい。六甲山はいろいろ峰があるが、やはり最高峰がいい。そして登りやすいルートがいい。それに朝子や長女の楓子（ふうこ3才）、次男の駿（すぐる0才）が一緒に来て待っている場所が必要だ。このような条件から、有馬温泉のロープウェイの駐車場に車を止め、魚屋道を登って最高峰に行き、最高峰からロープウェイの六甲山頂駅に歩いて朝子達と落ちあう。妻の伸枝は健生達と一緒に登らず、六甲高山植物園に行つて絵を描く。食料を持って行き、山頂駅の近くで一緒に食事をする。食事するだけではつまらないから、そこでご飯を炊いて食べるということにした。六甲山は道路も張り巡らされているし、ロープウェイもある。こういうイベント的なことをやるにはもってこいのところだ。

湯山稲荷大明神の鳥居と祠がある登山口にみんなが着いたのは8時50分ころだった。楓子が転んで怪我をし、手当てをしたりしたので、実際に出発したのは9時を過ぎていた。出発点には「杖捨て箱」という立派な箱がある。下ってきた人が杖を捨てる箱だ。中には木の枝の杖が入っている。由来を見ると、昔、有馬温泉へ杖をついて来湯した湯治客は、有馬に来るとみるみる元気になり、帰りには杖がいらないくらいになったという。有馬温泉の六甲川にかかる杖捨橋の由来にもなっている。その言い伝えを踏まえてここに杖捨て箱を置いたようだ。勝仁君と健生は箱から杖をとりだし、それを使って歩き出した。朝子は駿を抱いて途中まで見送りにきた。伸枝は楓子をつれて近くの「かんぼの宿」に遊びにいったようだ。

出発点には、「六甲山頂上二到ル三七二六メートル、住吉二到ルー二四一三メートル」と書かれた古い石の道標がある。頂上に続くこの魚屋道（ととやみち）は、江戸時代有馬温泉に神戸（魚崎）の魚を運ぶために使われた道。明治になり県道有馬住吉線として整備され、明治7年に大阪神戸間に鉄道が開通すると住吉駅が有馬温泉の最寄り駅になり、徒歩、馬、加籠による交通が盛んになったという。そのため、魚屋道は傾斜をゆるくするためジグザクにつくられていて歩くのは楽だ。この楽だというのが、私の狙いだったが、子どもにとっては退屈な道だということを忘れていた。途中の樹木や草花には関心がないので、興味の対象がないのである。そこでジグザグ道を下から上へショートカットしている踏み跡に登り始めた。道が曲がって上に本道が通じている場合はいいが、曲がらずまっすぐ道が進んでいる場合はひどいことになる。道の様子を知るのはいまは楽だ。勝仁君はスマホのGPSを見て、ショートカットの道が本道に出る場合に限って健生にゴーサインを出した。場合によっては勝仁君も後を歩いた。その後、ジグザグは少なくなり、歩きやすくなった道を歩いて昔の峠の茶屋跡に着いた。9時45分だった。45分は休憩なしで歩いたことになる。茶屋跡には、今は休憩場所がある。ここでしばし休憩。さらに、ブナやイヌブナ、ツツジの咲く道を歩いて、吉高神社が右下に見える場所に着いた。ここまでくれば頂上までもうすぐだ。健生はすこし道から下ったところにある神社に駆けていった。好奇心旺盛、興味あるものが出てくると元気になる。神社からはすこしの歩きで舗装道路にでる。一軒茶屋だ。ここは山中を車が走る舗装道路があり、人が急に多くなる。広い道を登ると、六甲山最高峰だ。11時に着いた。途中いろいろなことをやったにしては、わりにはよい時間だ。



六甲山最高峰で 2014 年



六甲山頂駅の前で食事

頂上には大きなアンテナがある。人もたくさんいたが、驚いたことに、勝仁君の知人も奥さんと子どもを連れてきていた。左の写真はその知人に撮ってもらったものである。

これで一段落と思ったら、大間違いだった。最高峰からロープウェイの六甲山頂駅までは前の地図にあるように比較的距離が長い。舗装道路はかなり高低差がないようにつくられているが、登山路は忠実にピークを登って行く。一人で歩くとなんともない道だし、伸枝にもウォーキングシューズ、スカートでこの道を歩かせたことがある。体力を消耗していた健生にとっては、このアップダウンはこたえたようだ。たしかにこれは孫を連れて歩くときの反省材料だ。でも文句を言いながらも、どうやら六甲山頂駅に着いた。12時15分で、食事に丁度良い時間だった。

伸枝や朝子たちはもう着いてマットを広げていた。みんなで高山植物園へ行ってきたという。伸枝は絵を描くまでには至らなかったようだ。早速伸枝がつくって山頂駅まで抱えてきたご馳走を食べる。私はザックにいれて背負ってきた米、コッフェル、バーナーを出して炊飯だ。みんなの分、全量を炊くと時間がかかるので、大半は伸枝の持ってきた炊き込みご飯。しかしこの場で炊いたご飯は適当におこげもできて味は好評。これも孫たちと登る登山の醍醐味だ。

下りは、極楽茶屋から紅葉谷を歩くつもりだったが、健生のストライキにあって断念。みんなでロープウェイで下りた。すべては最初の地図のGPS軌跡の黄色の線が物語っている。

●退職者の紹介「産研の思い出」

平成 26 年度は、谷村克己教授、江村修一助教、新田孟助教、松川博昭技術室計測班長、三田敏夫事務部長が定年退職されました。



江村 修一 助教
(量子システム創成研究分野)

私が学生で産研に配属された当時は、今と違って厚生関係の行事がそれなりに催されておりました。中でも、8月下旬に開催されていましてスポーツ大会は圧巻で、さまざまなスポーツを網羅しての全学大会でした。当時の一番人気はやはりソフトボール競技でして、吹田地区、豊中地区、中之島地区のそれぞれで予選があり4チーム、3チーム、1チームが本戦に出場と言う段取りでした。吹田地区はおおよそ45～50チームの予選となり、6月～7月にかけての予選を勝ち抜いてそこからの4チームですのだからかなりの激戦となります。産研からは技術室・事務チームが本戦出場の常連でした。教官側にもかなり上手で好き者がおられたので、教官チームを結成し予選大会に参加致しましたが、一回目は初戦で敗退したように記憶しております。しかし、年を重ねるに従って勝ち抜いて行きました。その内ひょんな事から本戦出場枠のベスト4まで勝ち抜き、他は知らず、我々はこの先二度と無いかもしれないと言うことで準決勝・決勝と手を抜かず戦ってきました。当然、準決勝・決勝はそれほど意味がありませんので、相手は普段は出てこない多彩なメンバーを出してきます。その結果、勝ってしまい写真にありますように優勝を果たしました。決勝には当時の所長の三角先生にもお願いして出ていただきました。



新田 孟 助教
(医薬品化学研究分野)

産研の教官として三代の先生にお世話になり、医薬品関連化合物の合成研究に取り組んで来ました。常にチャレンジ精神で諦めない気持ちで邁進し、多くの先生方に有用な御指導、ご鞭撻を頂き、高度な技術、知識を習得させて頂きました。この間多数の方と出会い出来た事に感謝し、心よりお礼申し上げます。

多機能分野を有する研究所の存在を偉観なき発揮され、更なる発展を祈願しますと共に自然環境に恵まれた研究所が長く存続する事を望みます。



松川 博昭 計測班長
(技術室)

私は 1973 年 4 月に技術職員として産研の一員になり、42 年間にわたりガラス工作技術者として研究支援をさせていただきました。

当時の産研は第一研究棟、工場棟、放射線実験所、管理棟だけで第二研究棟の辺りには小さい運動場がありました。運動が好きな私は野球、ソフトボール、テニスなどでよく遊びました。また、運動会&ビアパーティーも開催されていました。このイベントは土曜日の昼から産研構成員の家族も交え、周りの自然豊かな林を眺めながら和気藹々と楽しく過ごしたことを思い出します。

私が仕事に自信ができた頃は理系のノーベル賞受賞者は3名程でした。その頃に私の設計・製作した装置や実験器具を使って、ノーベル賞を取ってみたいという夢を持ちました。残念ながらこの夢はまだかないません。しかし、これからを支える優秀な技術室のメンバーに夢を託したいと思います。

定年後も再雇用で暫く同じ支援業務をさせていただきますが、区切りの年として長年に亘りご指導ご鞭撻を賜りました皆様に深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。

揭示板

●平成26年度最終講義、さよなら茶話会の開催

平成27年3月31日をもちまして、谷村克己教授（励起物性科学研究分野）が定年退職されました。これを記念して、3月4日に産研講堂において最終講義が行われました。

また、引き続き、平成26年度に定年退職される方々を囲むさよなら茶話会が開催されました。平成26年度は谷村克己教授、江村修一助教、新田孟助教、松川博昭技術室計測班長、三田敏夫事務部長が定年退職されました。八木所長からの開会の挨拶と送別の辞、退職者の挨拶、花束と饗別の贈呈の後、磯山教授による乾杯の発声により会は始まり、教職員、学生などの参加者が退職者の新たな門出を祝福した後、閉会の挨拶として吉田副所長から暖かい言葉が贈られ、閉会しました。



谷村 克己教授
「励起物性科学への道」



さよなら茶話会

●「産研フェスタ 2015」が開催されます

平成26年7月17日（金）午後5時30分より、産研講堂において「産研フェスタ2015」が開催されます。事前申込は不要です。皆さまお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。



ご意見ご要望等ございましたらいつでもご連絡ください。

産研同窓会 (SANKEN Alumni Association)

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘 8-1 / TEL: 06-6879-8380 / FAX: 06-6879-8509
E-mail: DOUSOUKAI@sanken.osaka-u.ac.jp / URL: <http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/dousoukai/>